

【活動日誌136】本の防虫・防カビ処理

今回は博物館で日常的に進めている作業を紹介したいと思います。facebookを始めた当初に一度紹介していた、博物館での資料の管理と保存の作業の一環として、最近は「無酸素パック Moldenylbe(モルデナイベ)」と、「ドライクリーニング・ボックス」が活躍しています。

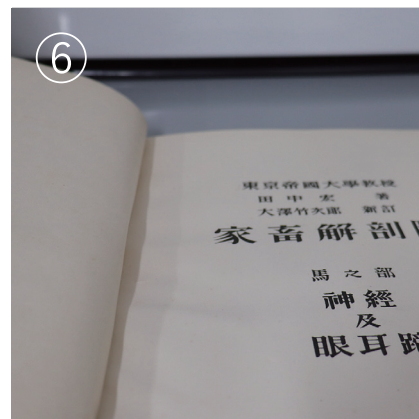
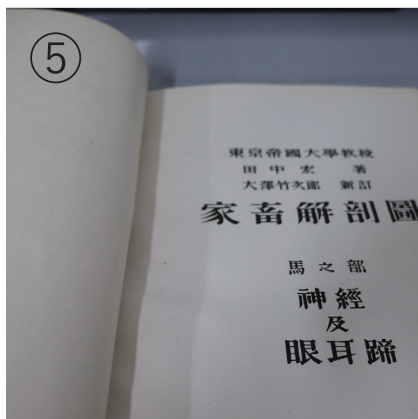
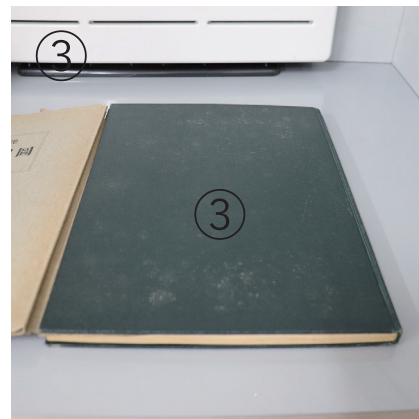
先日は、2022年度の企画展のために購入した古書の殺虫・殺菌処理と掃除を行いました。今回取り扱った書籍は、田中宏と大澤竹次郎による1937年に発行された「家畜解剖図譜 馬之部」です。本学が所蔵している獣医学教育用掛図の画家でもある二人の手による解剖図であるため、企画展の参考資料として活用した上で、今後は本館所蔵の歴史資料として登録することとなりました。

モルディナイベから取り出した本をドライクリーニングボックスの中で状態を確認すると、本の表紙と裏表紙に白いカビのような汚れのようなものが、また中のページにも茶色い点々とした汚れやホコリなどが付着していることがわかりました。そこでカビの再発生を防ぐため、刷毛や紙を使ってカビの再発生の原因となるカビの胞子のようなものやホコリなどを除去しました。

博物館へ移管・寄贈していただく資料や、新規で購入した資料等は、日々このような殺虫・防カビの処理と状態の確認、クリーニングを経た上で、通し番号を付けて保管室での管理を行うこととなります。来る日に展示室でみなさんのお目にかかるまで、今後も適切な状態での保管と資料の調査を継続していきます。

(スタッフ 廣瀬)

2023年7月1日の記事



- ① 今回掃除した本ではありませんが、無酸素パックを用いて脱酸素処理をしている様子です。酸素濃度計で濃度が0%になっていることがわかります。
- ② 脱酸素処理を終えた本をドライクリーニング・ボックスの中に入れて、目視で状態の確認を行います。
- ③ 紙のカバーを取り外すと、表紙に白い汚れのようなものが付着しているのがわかりました。裏表紙も同様の状態でした。
- ④ 表紙や裏表紙はまず厚手のティッシュ(紙タオル)で表面の汚れをふき取り、それでとれないものは刷毛で丁寧に掃きとります。今回はほとんど汚れが見えない程度にきれいになりました。
- ⑤ 中のページにも、点々と茶色いチリや汚れのようなものが付着していました。茶色い点は古い時代の紙だともともと紙に色の濃淡がある場合もあります。
- ⑥ 中のページの背表紙に近い部分にはチリやホコリが溜まりやすいので特に注意して掃除します。刷毛で掃きとったあとに、手で触って取り残しがないかを確認するようにしています。

【お知らせ】

『東京のワクワクする大学博物館めぐり』に当館が紹介されました

『東京のワクワクする大学博物館めぐり』(著者: 大坪覚 / 発行: トゥーヴァージンズ) が出版されました。当館は歴史的建造物の中で最新の獣医・畜産・生命科学に触れることができる博物館として紹介されています。当館の他にも東京近郊の大学博物館110件が紹介されています。

当館は事前にご予約をいただければどなたでも見学が可能です。皆様のご見学をお待ちしております。

■ 【NEW】東京のワクワクする大学博物館めぐり

https://www.twovirgins.jp/book/tokyo_daigakuhakubutsukanmeguri/
書籍の詳細はこちらをご参照ください

■ 来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>
見学のご予約についてはこちらのページをご参照ください

【活動日誌137】学芸員課程実務実習：植物標本と昆虫標本の作成2

今年度の学芸員課程学内実習も終わりが近づいてきました。本日の記事では馬谷原先生による2回目の実習の様子を紹介します。

この日は、1回目の実習で準備した昆虫標本と植物標本を完成させるための作業を行いました。昆虫標本は展翅板の上で乾燥させていたものを取り外し、採集日や採集場所などの情報を記載したラベルをつけて、標本箱に刺しました。学生たちは標本を固定していた針を抜き差しする時にチョウの羽を傷付けないよう気を配りながら、慎重に作業に取り組みました。

植物標本は、先週の実習が終わった後、乾燥させるために各自が持ち帰っていました。今回の実習では、乾燥した植物標本を持ち寄り、ラベルを貼り付けた台紙に固定する作業を行いました。実習の合間には、前回の実習の際に学生から出た質問(植物の種類によって乾燥期間は変わる？昆虫の大きさで標本の作り方は変わる？)に対してご回答をいただきました。

今年度の学内実習は資料の梱包をテーマとした実習を残すのみとなりました。最後の実習の様子もFacebookでご紹介いたします。

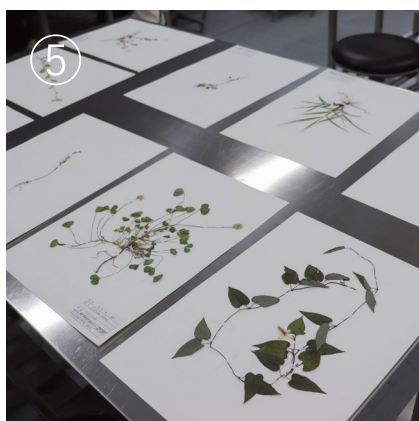
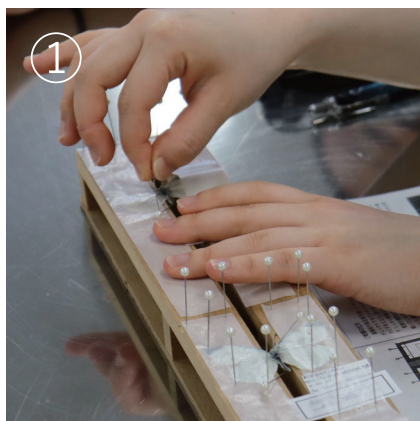
(学芸員 石井)

■【活動日誌131】学芸員課程実務実習：植物標本と昆虫標本の作成

<https://tinyurl.com/bdet9nf4>

馬谷原先生による1回目の実習の様子はこちらの記事でご紹介しています

2023年7月6日の記事



- ① チョウを抑えていた針を抜く様子
- ② ラベルをつけたチョウを標本箱に並べる様子
- ③ 学生が作成した標本たち
- ④ 採取・乾燥した植物を台紙に貼り付ける様子
- ⑤ 完成した植物標本

【活動日誌138】団体見学を受け入れました

当館では団体のお客様の見学を受け入れています。先日は「一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会」の皆様にご来館いただきました。

この日は、本学にて同協会の会議が行われており、当館の見学は本学の施設見学の一環として実施されました。当館には15名の方がご来館くださり、博物館スタッフが建物の歴史や収蔵資料の見どころなどを紹介しました。参加者の方の中には以前大学を訪れたことのある方もいらっしゃり、以前の一号棟の様子などについてもお話を伺うことができました。

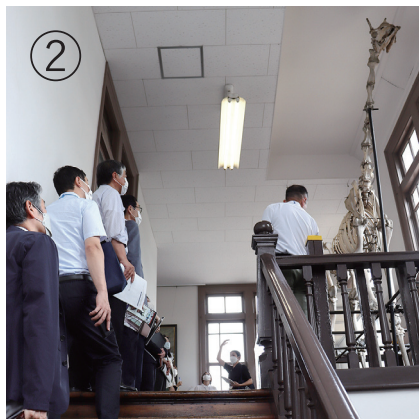
団体見学をご希望の場合、来館希望日の2週間前までのご予約が必須となります。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

団体見学をご希望の方はこちらのページの「団体見学のご予約について」をご参照ください

2023年7月8日の記事



- ① 一号棟の入口で建物や博物館についての説明を行う様子
- ② キリンの骨格標本について説明する様子
- ③ 歴史系展示室の見学の様子
- ④ 自然系展示室でスタッフが説明する様子
- ⑤ 定期交換展示室の見学の様子

【活動日誌139】高校生の団体見学を受け入れました

当館は本学の受験を検討している方の見学場所としても活用されています。先日は「東京都立鷺宮高等学校」の皆様が大学見学の一環として、博物館の見学を受け入れました。

この日は本学に興味をもつ同校の2年生10名がご来館されました。通常の見学の解説と同様に、博物館が活用している一号棟と各展示室の見どころを簡単に紹介したほか、受験を検討されているということで、当館を活用した学芸員課程の実習についても紹介しました。

受験生による大学の見学については本学の入試課が窓口となっています。ご興味のある方は入試課までお問合せください。

■お問合せ

<https://www.nvlu.ac.jp/inquiry/inquiry.html/>

入試課を含むお問合せ先の一覧です

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

当館のみの団体見学をご希望の方はこちらのページの「団体見学のご予約について」をご参照ください

2023年7月13日の記事



- ① 自然系展示室を見学する様子①
- ② 自然系展示室を見学する様子②
- ③ キリンの骨格標本を見学する様子
- ④ 定期交換展示室を見学する様子

【活動日誌140】資料の保存管理：専用保存箱を導入しました

博物館で日常的に進めている作業として、資料の適切な保存管理作業があります。近年博物館には、国際希少野動物種であるユキヒョウの毛皮や、大学昇格前の日本高等獣医学校時代の生徒が書いた解剖図など、貴重な資料が多数寄贈・移管されました。

資料を適切に管理するためには、保管室の温度や湿度を適切な状態に保つことが重要ですが、古い木造校舎を活用している本学の場合、保管室の温湿度が天候に左右されてしまうという問題を抱えています。そこで今回、これらの貴重な資料を保存するための専用保存箱(アーカイバル容器)を導入しました。専用の保存箱は、当館のような温湿度管理が困難な古い建物の中で、資料の温湿度変化を抑えてくれるのと同時に、中の資料を劣化させない素材でできているため、資料の長期保存に適しています。

それぞれ中に保存する資料のサイズに合わせてオーダーメイドで作られており、説明書に従って組み立てて設置し、今回は早速貴重な毛皮類などを中に入れました。

このような形で保存できる資料には限りがありますが、寄贈・移管により博物館に来た資料を可能な限り最適な状態で保存できるよう、今後も努力していきます。

(スタッフ 廣瀬)

2023年7月15日の記事



- ① アーカイバル容器の説明書を確認して、納品された容器の材料を組み立てて行きます
- ② 材料をあらかじめ入れてある折り目に沿って折っていきます。
- ③ ほぼ箱の形に成形しました。
- ④ ユキヒョウを移動して、毛皮が曲がっていたりしないよう、形を整えて納めました。
- ⑤ 保管室内の棚にぴったり入るサイズの棚はめ込み箱も導入しました。こちらは鳥卵図譜や、日本高等獣医学校時代の生徒が書いた解剖図のスケッチブック等を保存する予定です。

【活動日誌141】入試説明会に合わせて博物館を開館しました

7月16日に本学の入試説明会が開催されました。当館は入試説明会に来場された方を対象に展示室を公開しました。

当日は暑すぎるほどの好天に恵まれ、たくさんの方にご来場いただくことができました。今年度の受験生向けイベントはこれで2回目となりますが、前回の来館者数を上回る222名の方が当館をご見学されました。ご来館くださった方の中には、入館受付として使用した作業室に置いていた骨格標本に興味を持たれた方や、一号棟の建物そのものに興味を持たれた方などもいらっしやり、展示以外の部分でもお楽しみいただけたようです。

今回の入試説明会を含めて、本学では受験生向けに様々なイベントを実施していますが、博物館では8月19日・20日のオープンキャンパスに合わせて特別開館を行い、その際2023年度企画展をプレ・オープンする予定です。

本学の受験生向けのイベントについては、詳しくは本学の受験生向けサイトをご覧ください。

(学芸員 石井)

■日本獣医生命科学大学受験生サイト ニチジュウ NAVI

<https://www.nvlu.ac.jp/nichijyunavi/>

2023年7月20日の記事



- ① 大学正門に建てられた入試説明会の看板。暑い中、続々と参加者の方が来てくださりました。
- ② 入試説明会が行われているB棟の入口。博物館の案内も出しました。
- ③ 自然系展示室の見学の様子
- ④ 定期交換展示室の見学の様子
- ⑤ 歴史系展示室の見学の様子

【資料紹介15】自然に於ける退化

本日は、当館で所蔵している書籍の中から「自然に於ける退化」を紹介します。

「自然に於ける退化」は、以前facebookでご紹介させていただいている、勝木文庫の1冊です。

この本はドイツの動物学者であるアウグスト・ヴァイスマンが1886年にフライブルク大学で行った講演の内容を、市川千代松が許可を得て翻訳した講演録です。アウグスト・ヴァイスマンは進化生物学を専門として多くの業績を残しており、この講演では表紙に使われているペンギンの翼が魚のひれのように変化して、空を飛ぶことができないことや、真っ暗な洞窟の中に棲むサンショウウオの目が見えないことを、自然淘汰によって起きた退化の例として説明しています。

翻訳者の石川千代松は日本の有名な動物学者で、日本に初めて進化論を体系的に紹介した人物として知られています。東京大学で動物学を学び、助教授となった後にドイツのフライブルク大学に留学し、アウグスト・ヴァイスマンに師事していました。

本書は、市川千代松がドイツから帰国した後に、帝国大学農科大学の教授と帝国博物館天産部長兼動物園監督を勤めていた間に原稿がまとめられ、1907年6月に初版が印刷発行されています。当館が所蔵しているのは、1908年4月に発行された再版です。

(スタッフ 廣瀬)

【大学史の紹介21】日本獣医畜産大学開学当初の関係者

<https://bit.ly/3IXDUva>

本学の前身校である日本獣医畜産大学の勝木教授と勝木文庫について紹介しています。

2023年7月22日の記事

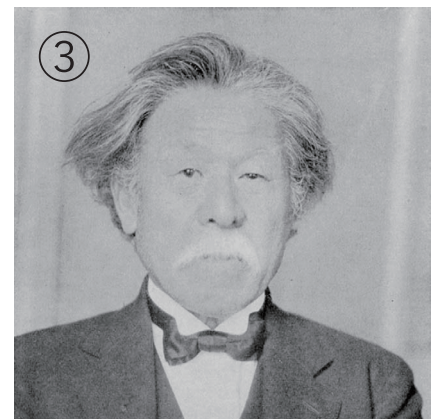
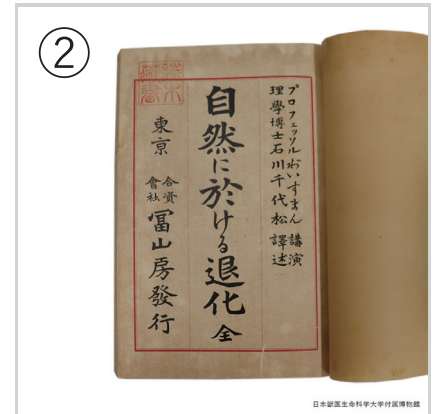
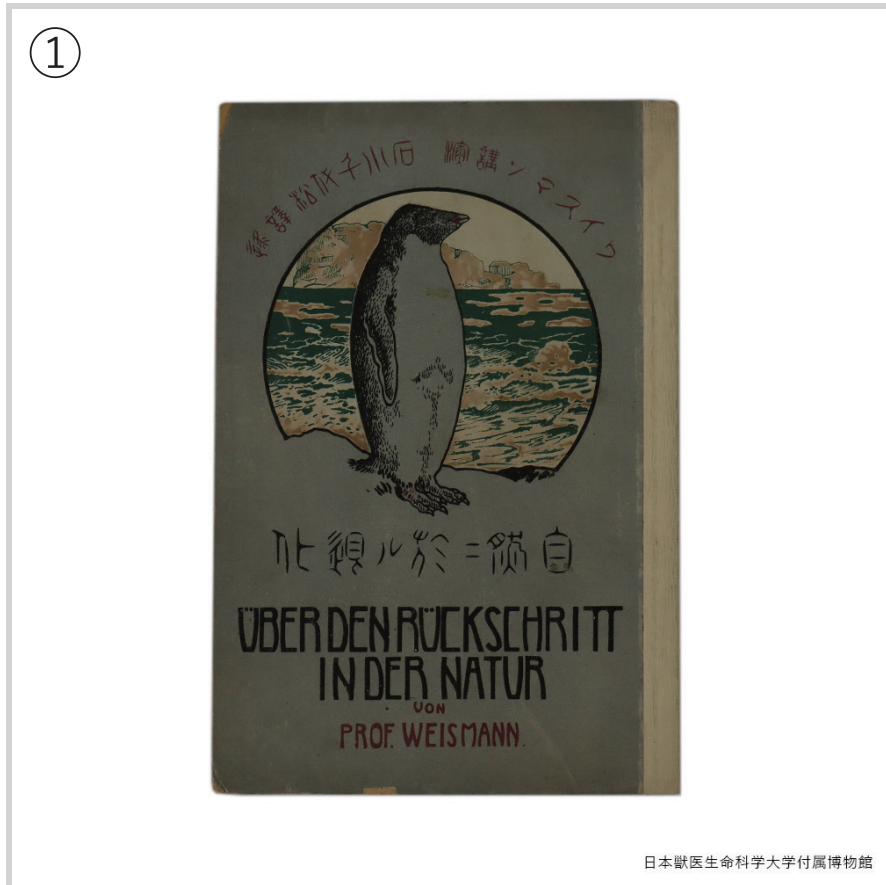
〈資料詳細情報〉

[名称]自然に於ける退化

[訳者]市川千代松

[発行年]1908年

[サイズ]220×148×5(縦×横×厚さ mm)



- ① 退化の例として説明されているペンギンが描かれている。
- ② 扉。左上に勝木蔵書の印が押されている。
- ③ 翻訳者である石川千代松。石川千代松は日本に初めてキリンを渡来させた人物でもある。

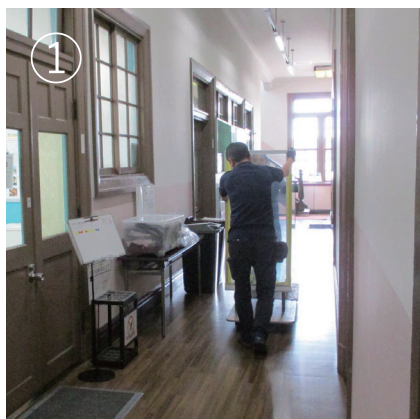
【活動日誌142】ガラスケースを導入しました

本学の法人本部から不要となったガラスケースの提供について相談があり、当館で受け取ることにしました。ガラスケースは業者の方に搬入して頂き、博物館が倉庫として活用している部屋に仮置きしました。

当館では今後、現在設置している自然系展示室・歴史系展示室および定期交換展示室の3室の他に、獣医畜産学の歴史に関する展示室と、本学の学部学科で学べることを紹介する展示室の2室を新たに整備する計画となっています。

博物館ではこれまでも、学内で使われていた棚や机などの備品もできるだけ廃棄せずに利活用するようにしており、このケースはこの新しい展示室にて活用する予定です。

(学芸員 石井)



- ① 搬入の様子①
- ② 搬入の様子②
- ③ 導入したガラスケース

【活動日誌143】

解剖図スケッチブックのクリーニングとデジタル化を進めます

当館では、本学で使われてきた獣医学教育用の様々な資料を管理しています。講義録等の冊子や実験・研究等で用いられた計測器類などのほか、特に掛図については100本以上をコレクションとして管理しています。このような獣医学教育に関する資料の一環として、日本高等獣医学学校時代の学生が描いた解剖図をまとめたスケッチブック状の冊子12冊が昨年度当館に移管されました。現在も解剖学の実習では学生が解剖図のスケッチを行っていますが、戦前の学生も同様の実習を受けていた証拠となる貴重な資料であることもあり、この解剖図スケッチブックのデジタル化を進めることとなりました。

スケッチブックは長年学内の倉庫にて保管されており、発見時すでにカビの発生が確認されていました。そのため、移管後からカビの処置を行っていましたが、本格的なドライクリーニングを行った後にデジタル化を行うため、作業の依頼を予定している業者の方にお越しいただき、資料の状態チェックとデジタル化の方針を決めるためのミーティングを行いました。解剖図スケッチのデジタル化が進んだのちには、当館の今後の展示に活用し、また最終的にはweb公開を目指していきたいと思えます。

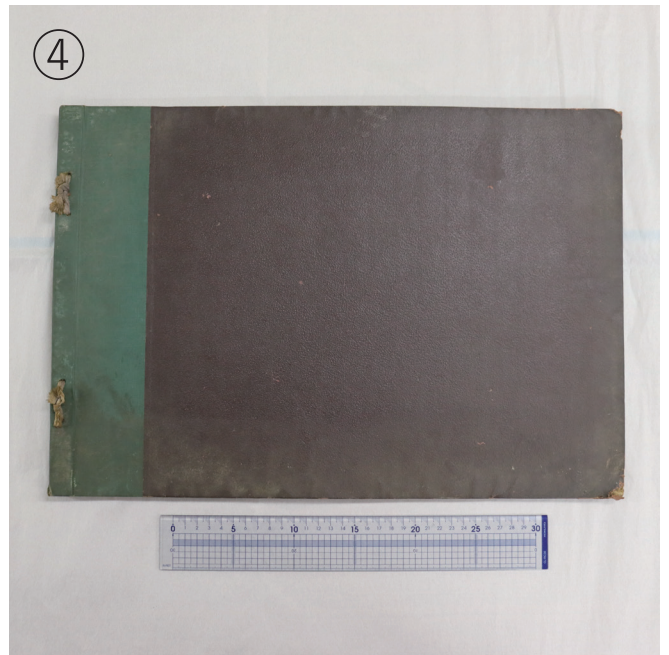
(スタッフ 廣瀬)

【活動日誌116】新たな掛図の収集

<https://bit.ly/3GaAm7d>

こちらの資料が発見されてお預かりした際の資料紹介の記事です。

2023年7月29日の記事



- ① 先日もご紹介したモルディナイベでカビの不活化処理を行った後の資料の様子。
- ② スケッチブックの枚数を確認している様子。全冊30枚ずつの台紙があり、全ページ解剖図が張り付けてある冊子と途中までしか使われていない冊子がありました。
- ③ 解剖図の状態も物によって異なるため、それぞれの図を確認しました。
- ④ スケッチブックをお預かりした時の状態。表紙にカビのようなものがついているのが確認できる。